

特定非営利活動法人日本火山学会 2022 年度秋季大会プログラム

期 間：2022 年 10 月 12 日（水）～ 10 月 14 日（金）（学術講演会・口頭）

2022 年 10 月 17 日（月）～ 18 日（火）（学術講演会・ポスター）

会 場：学術講演会（口頭）三島市民文化会館 及び オンライン

学術講演会（ポスター）オンライン

責任者：2022 年度秋季大会実行委員会 小山真人委員長

【講演会場（口頭）】

三島市民文化会館

〒 411-0036 静岡県三島市一番町 20-5

<https://www.mishima-youyouhall.com/>

【口頭発表スケジュール】

		A 会場 (三島市民文化会館・大ホール)	B 会場 (三島市民文化会館・大会議室／ 小ホール)
10 月 12 日 (水)	午後 (14:00 ～ 15:30)	火山災害	火山化学（大会議室）
	午後 (15:50 ～ 17:35)	阿蘇火山	地殻変動（大会議室）
10 月 13 日 (木)	午前 (9:00 ～ 10:30)	噴出物の堆積と運搬	火山の地震（小ホール）
	午前 (10:50 ～ 12:20)	火山の岩石学 1	地下構造（小ホール）
	午後 (14:00 ～ 15:30)	火山の岩石学 2	噴火のダイナミクス 1（小ホール）
	午後 (15:45 ～ 16:15)	臨時総会（A 会場）	
	午後 (16:15 ～ 17:15)	受賞記念講演（A 会場）	
10 月 14 日 (金)	午前 (9:00 ～ 10:30)	火山の監視と活動評価 1	噴火のダイナミクス 2（小ホール）
	午前 (10:50 ～ 12:05)	火山の監視と活動評価 2	マグマの蓄積と移動 1（小ホール）
	午後 (14:00 ～ 15:45)	火山の地質学	マグマの蓄積と移動 2（小ホール）

※一人あたりの講演時間は 15 分ですが、3 分は質疑応答時間として残すようにしてください。

【ポスター発表スケジュール】

・フラッシュトーク：10 月 17 日（月）9:00-11:36（P1-01 ～ P1-41）

10 月 18 日（火）9:00-11:33（P2-01 ～ P2-40）

・コアタイム：10 月 17 日（月）13:00-15:00（P1-01 ～ P1-41）

10 月 18 日（火）13:00-15:00（P2-01 ～ P2-40）

【そのほかの行事・会合予定】

・10月15日（土）：13:00～15:00

会場：三島市楽寿園

公開講座「親子で火山実験～富士山の溶岩はどこまで流れる？―昔の溶岩を観察して、実験で理解しよう」

・11月6日（日）：13:00～16:30

会場：三島市民生涯学習センター

一般公開シンポジウム「最新科学がさぐる富士山の火山学と防災」

【現地討論会】

・「富士山」

開催日時：10月15日（土）

案内者：馬場 章（富士山研），山元孝広（産総研），千葉達朗（アジア航測），小林 淳（静岡県富士山遺産センター）

参加費：4000円（簡易保険費込み・昼食代別）

見学予定：水ヶ塚駐車場・太郎坊・R246 須川橋

【ジオツアー】

・伊豆半島ジオガイド協会主催ツアー

※伊豆半島ジオガイド協会（<https://izugeoguide.org/>）主催のガイドつきツアーです。

・10月12日（水）午前中 「富士山の溶岩流がつくった三島の大地を巡るツアー」

・10月13日（木）・14日（金）朝 「白滝公園と桜川で朝散歩＆朝食ツアー」

・10月15日（土） 「伊豆半島の採石場と大室山ツアー」

10月12日(水) 午後

A 会場

火山災害

座長：中道治久・横山 光

14:00-14:15

A1-01 火山岩塊の落下を受けて実施した桜島住民アンケート結果 ※中道治久・阪本真由美

14:15-14:30

A1-02 御嶽山 2014 年噴火：訴訟の意義と指摘された気象庁の過失 ※木股文昭

14:30-14:45

A1-03 御嶽山登山者の火山防災意識と装備品に関する調査 ※加藤 健・山田浩之・佐々木 寿
田ノ上和志・澤田義幸

14:45-15:00

A1-04 鉄筋コンクリート造を対象とした被覆人工軽石の衝撃吸収効果の検討
※久保智弘・吉本充宏・本多 亮
西澤達治・立山耕平・木村 陸
山田浩之

15:00-15:15

A1-05 赤外線サーモグラフィ試験を用いた鉄筋コンクリート造耐噴石シェルターの健全性評価
※◎木村 陸・斉藤順哉・山田浩之
小笠原永久・立山耕平・吉本充宏
本多 亮・久保智弘
西澤達治・佐々木 寿

15:15-15:30

A1-06 こどもサマースクールへの火山学会としての関わりと課題 ※横山 光・青山 裕

15:30-15:50 休憩

阿蘇火山

座長：宮縁育夫・森 健彦

15:50-16:05

A1-07 阿蘇火山中岳 2021 年 10 月 14 日噴出物の分布と構成物 ※宮縁育夫・飯塚義之・大倉敬宏

16:05-16:20

A1-08 火山灰の硫黄同位体組成に基づく噴火メカニズムの解明 阿蘇火山 2021 年 10 月噴火の例
※◎平田 碧・大場 司・井村 匠
高橋亮平・Manalo Pearlyn Cabarubias
長谷中利昭・永田紘樹・池田柊道

16:20-16:35

A1-09 阿蘇 2021 年水蒸気噴火後の地下比抵抗分布の推定 ※◎石橋 桜・宇津木 充・南 拓人
吉川 慎・井上寛之

B 会場

火山化学

座長：角野浩史・萬年一剛

14:00-14:15

B1-01 ヘリウム・炭素同位体比からみた草津白根火山周辺における地下深部流体の起源
※角野浩史・滝口孝寛・小長谷智哉
外山浩太郎・寺田暁彦

14:15-14:30

B1-02 草津白根火山・湯釜火口周辺における土壌ガス中のヘリウム・炭素同位体比—土壌ガスの起源—
※◎若松 海・寺田暁彦・角野浩史
小長谷智哉・谷口無我・大場 武

14:30-14:45

B1-03 真っ黒な殻の謎～大涌谷の黒たまご～
※◎木村凜太郎・萬年一剛・熊谷英憲
松井洋平・伊規須素子・高野淑識

14:45-15:00

B1-04 樽前山におけるドローンを用いた噴気孔別噴煙採取と遠隔噴気温度推定
※◎宮木裕崇・角皆 潤・伊藤昌稚
渡部紘平・中川書子・田中 良
西川空良・寺田暁彦

15:00-15:15

B1-05 鉛直硫化水素センサーアレイを用いた火山ガス放出量定量法開発
※◎渡部紘平・角皆 潤・宮木裕崇
伊藤昌稚・中川書子・風早竜之介

15:15-15:30

B1-06 同位体比赤外線分光計を用いた火山ガス炭素同位体比の現地連続測定
※◎沼田翔伍・角野浩史・森 俊哉

15:30-15:50 休憩

地殻変動

座長：小林知勝・田中 良

15:50-16:05

B1-07 国土地理院における干渉 SAR 時系列解析を用いた火山性地殻変動の監視
※小林知勝・三木原香乃・市村美沙
古居晴菜・雨貝知美・石本正芳・佐藤雄大

16:05-16:20

B1-08 アトサヌプリ火山群の収縮変位の継続—3 世代衛星による干渉 SAR 観測と ALOS-2 時系列解析—
※藤原 智・三木原香乃・市村美沙
石本正芳・小林知勝

16:35-16:50
A1-10 3次元温度分布図からみた2020年8月から2022年3月の阿蘇中岳第一火口の熱活動
※梨元 昂・横尾亮彦

16:50-17:05
A1-11 メッシュ状に配置したNetwork-MTダイポールデータによる阿蘇カルデラ地下の3次元比抵抗分布(2)
※畑 真紀・上嶋 誠
宇津木 充・松島喜雄

17:05-17:20
A1-12 阿蘇火山における二酸化硫黄放出率の準連続観測～その1～
※森 健彦・入山 宙
河波俊和・岩本征大・井上秀穂

17:20-17:35
A1-13 阿蘇火山において噴火準備過程で発生するA型地震
※小松隼人・大倉敬宏・爲栗 健

16:20-16:35
B1-09 長期間の地盤変動から示唆される九重火山の火道閉塞
※成田翔平・大倉敬宏

16:35-16:50
B1-10 干渉SARによる箱根火山大涌谷における地すべり性変位のモニタリング
※道家涼介・佐ノ木 哲・岩永昇二
里 優・細野賢一・富永英治

16:50-17:05
B1-11 阿蘇カルデラ周辺の地殻変動の変動源について(1997年-2015年)
※◎大久保美鈴・大倉敬宏

17:05-17:20
B1-12 十勝岳における微小傾斜変動イベント変動源の検討—2019年11月5日・2022年1月21日の例—
※◎近内雪乃・青山 裕

17:20-17:35
B1-13 熱水系の活動による地盤変動に対する浸透率構造の影響
※田中 良・橋本武志・成田翔平

10月13日(木) 午前

A 会場 噴出物の堆積と運搬

座長：馬場 章・安田裕紀

9:00-9:15
A2-01 南西北海道、有珠山の山体崩壊時期の再検討：岩屑なだれにより発生した再堆積テフラ層からの推定
※中川光弘・松本亜希子・吉澤光城

9:15-9:30
A2-02 九州南部における福徳岡ノ場2021年輕石の漂着状況
※◎木尾竜也・成尾英仁・宮縁育夫

9:30-9:45
A2-03 富士火山、宝永噴出物中の溶結凝灰岩・黒曜岩
※馬場 章・藤井敏嗣・安田 敦・小林 淳

9:45-10:00
A2-04 富士山で発生するスラッシュ雪崩による土砂流出および降灰後の土石流に関する数値シミュレーション
※後藤 聡・北爪貴史・関 悠花里

10:00-10:15
A2-05 火山灰降下予測の連続化
※井口正人・中道治久
瀧下恒星・Alexandros-Panagiotis Poulidis

10:15-10:30
A2-06 火口近傍から遠方への火砕流内部構造の側方変化：層雲峡火砕流堆積物の例
※安田裕紀

10:30-10:45
A2-07 噴火直後における土石流発生評価に対する降灰分布厚推定手法の適用性
※清水武志・山本 望・今森直紀・石田孝司

B 会場

火山の地震

座長：廣瀬 郁・森亜津紗

9:00-9:15
B2-01 桜島爆発的噴火の発生場所
※西村太志

9:15-9:30
B2-02 草津白根山で発生する火山性低周波地震の振動周波数とマグマの脱ガス活動との関係
※◎中野誠之・熊谷博之・田口貴美子

9:30-9:45
B2-03 地震記録から推察される小笠原硫黄島における2022年7月から8月にかけての噴火活動の特徴
※廣瀬 郁・上田英樹・小園誠史・長井雅史

9:45-10:00
B2-04 桜島・昭和火口の活動に伴うハーモニック微動のピーク周波数
※◎田城陽菜・八木原 寛

10:00-10:15
B2-05 噴火微動と爆発地震から推定される噴出量と継続時間のスケーリング関係
※森 亜津紗・熊谷博之

10:15-10:30
B2-06 DASデータへの複素数主成分分析の適用による相対震源決定—吾妻山の火山性地震の解析—
※◎森作史哉・西村太志・中原 恒・江本賢太郎

10:30-10:50 休憩

10:45-11:05 休憩		地下構造 座長：為栗 健・寺田 暁彦	
火山の岩石学 1 座長：宮坂瑞穂・竹内晋吾		10:50-11:05	
11:05-11:20	A2-08 空隙・斑晶組織が支配する漂流軽石の粒径と浮遊性：福岡ノ場 2021 年噴火の例 ※竹内晋吾・石毛康介・上澤真平・諏訪由起子	B2-07 伊豆大島火山の浅部 3 次元地震波速度構造 (2)：Fast Marching Method の適用 ※田中 聡・及川 純・渡辺秀文 熊谷博之・松島 健・藤原健治	
11:20-11:35	A2-09 小笠原硫黄島翁浜沖 2022 年噴火の経緯と噴出物の特徴 ※長井雅史・中田節也・上田英樹 小園誠史・三輪学央・安田 敦 前野 深・外西奈津美・佐野貴司 谷 健一郎・及川輝樹・小林哲夫	11:05-11:20	B2-08 始良カルデラ下の地震波速度構造のイメージング ※為栗 健・八木原 寛・筒井智樹・井口正人
11:35-11:50	A2-10 中央海嶺では時折ボニナイトが噴出するモホ面の成因 ※田村芳彦・Mathieu Rospabe 藤江 剛・大平 茜・金田謙太郎 Alexander Nichols・Georges Ceuleneer 佐藤智紀・小平秀一・三浦誠一・高澤栄一	11:20-11:35	B2-09 屈折法地震探査によって推定された鬼界カルデラ地下の地震波速度構造 ※長屋暁大・藤江 剛・小平秀一・田中 聡 山本揚二郎・杉岡裕子・宮町宏樹・松野哲男 大塚宏徳・鈴木啓太・島 伸和
11:50-12:05	A2-11 長流川火砕噴火の地質学的・岩石学的研究：給源域の推定と洞爺カルデラ形成噴火との関係 ※宮坂瑞穂・中川光弘	11:35-11:50	B2-10 繰り返し反射法探査の実装研究 ※筒井智樹・味喜大介・為栗 健・井口正人
12:05-12:20	A2-12 北海道有珠山の地下構造：有珠上長和テフラ (Us-Ka) に含まれる花崗岩ゼノリス ※後藤芳彦・木藤稜真	11:50-12:05	B2-11 2004 年九重火山空中磁気測量データを用いた磁気インバージョン解析 ※◎伊藤良介・宇津木 充
		12:05-12:20	B2-12 湖水濃度変動から示唆される草津白根山浅部熱水循環の時間変化 ※寺田暁彦・鈴木レオナ・谷口無我・大場 武

10 月 13 日 (木) 午後

A 会場 火山の岩石学 2 座長：松本亜希子・辻 智大		B 会場 噴火のダイナミクス 1 座長：吉田康宏・前野 深	
14:00-14:15	A2-13 大規模珪長質マグマシステムの構造とその噴火プロセス：45ka 支笏カルデラ形成噴火の例 ※松本亜希子・中川光弘・宮坂瑞穂 栗谷 豪・吉村俊平	14:00-14:15	B2-13 2021 年福岡ノ場噴火における水に富んだ持続的噴煙柱の形成 ※前野 深・金子隆之 市原美恵・鈴木雄治郎・安田 敦 西田 究・大湊 隆
14:15-14:30	A2-14 十和田火山におけるマグマ活動史：その 5 ポストカルデラ期噴出物の特徴 ※広井良美・佐藤勇輝・宮本 毅	14:15-14:30	B2-14 大室ダシ海底火山の噴火履歴 Eruption history of the submarine Oomurodash volcano ※Iona McIntosh・谷 健一郎・青木かおり Alexander Nichols・柳島大輝・常 青 木村純一・小林 淳・村田昌則 鈴木毅彦
14:30-14:45	A2-15 バイモータル火山活動をもたらした岩手火山約 3 万年前のマグマ供給系 ※◎池田柁道・大場 司		

14:45-15:00		14:30-14:45	
A2-16 東北日本, 秋田駒ヶ岳南部カルデラの形成史 ※◎田次将太・中川光弘・和知 剛		B2-15 2022 年 1 月 15 日フンガ・トンガーフンガ・ハア パイ火山噴火に伴う大気・固体地球のカップリン グモードの励起 ※吉田康宏・綿田辰吾	
15:00-15:15		14:45-15:00	
A2-17 九重火山 54ka 飯田噴火における 2 回のマグマサ イクル ※辻 智大・岸本博志・藤田浩司 中村千怜・古澤 明・大西耕造 潮田雅司・福岡仁至・太田岳洋		B2-16 GNSS-TEC による 2022 年 1 月フンガトンガ・フ ンガハアパイ火山噴火の電離圏擾乱 ※◎清藤大河・青木陽介	
		15:00-15:15	
		B2-17 しかべ間歇泉の熱水供給系と噴出における物理過 程 ※◎柘植鮎太・青山 裕 秋田藤夫・加藤和彦	
		15:15-15:30	
		B2-18 霧島・硫黄山西火口で確認された間欠的熱水噴出 現象に対する多項目観測 ※◎田辺暖終・松島 健・相澤広記・村松 弾 安仁屋 智・吉永光樹・渡辺卓司	

臨時総会 (A 会場) 15:45～16:15

A 会場 受賞講演 座長：市原美恵		
16:15-16:45		
S-01 火山噴出物組織の形成・分解過程に着目した噴火 ダイナミクスの再構築 ※松本恵子		
16:45-17:15		
S-02 マグマ性揮発性物質の観測・実験・モデリングに 基づく火山現象解明への貢献 ※篠原宏志		

10 月 14 日 (金) 午前

A 会場 火山の監視と活動評価 1 座長：高木朗充・前田裕太		B 会場 噴火のダイナミクス 2 座長：山田大志・志水宏行	
9:00-9:15		9:00-9:15	
A3-01 火山ガスと地球物理学観測から推定される吾妻山 2018-2019 年の火山性異常 ※高木朗充・福井敬一・谷口無我・岡田 純		B3-01 降下テフラから推定される噴火推移：樽前山での 事例研究 ※山崎 雅・古川竜太・宝田晋治	
9:15-9:30		9:15-9:30	
A3-02 焼岳の 2022 年火山活動の活発化について ※成田冴理・関 晋・柳澤宏彰		B3-02 空気振動観測による桜島南岳の岩塊到達距離の検 討 ※山田大志・井口正人	
9:30-9:45		9:30-9:45	
A3-03 北海道における火山監視の現状と噴火予測研究へ の期待 ※三嶋 渉・宮村淳一		B3-03 空振パルス解析から推定する水蒸気爆発発生環境 ※横尾亮彦・小澤佑人	
9:45-10:00		9:45-10:00	
A3-04 機動地震観測に基づく最近の霧島火山の活動 ※森田裕一・吉澤史尚・小村健太郎		B3-04 気泡を含む粘弾性マグマ中の P 波伝播を記述する 数理モデルの開発 ※◎鮎貝崇広・金川哲也	

10:00-10:15

A3-05 2022 年 2 月～3 月の御嶽山の地震活動活発化について
※前田裕太・寺川寿子
山中佳子・堀川信一郎

10:15-10:50 休憩

火山の監視と活動評価 2
座長：後藤章夫・上田英樹

10:50-11:05

A3-06 陸水学的手法による、火口湖・潟沼の熱活動調査
※後藤章夫・知北和久

11:05-11:20

A3-07 二重偏波レーダーによる大気中の火山灰量推定手法について—初期解析結果—
※佐藤英一

11:20-11:35

A3-08 桜島における電場観測からの噴火検知の試み
※中島悠貴・西村太志・青山 裕
井口正人・大湊隆雄・神田 径

11:35-11:50

A3-09 桜島火山降灰量分布データベース (VASH) の構築
※真木雅之・西 隆昭・小堀壮彦・佐野香那

11:50-12:05

A3-10 広域の地震観測網のデータを用いた噴火微動のモニタリング
※上田英樹・廣瀬 郁
松澤孝紀・三輪学央
長井雅史・河野裕希

10:00-10:15

B3-05 安山岩質マグマによる溶岩流出噴火の火道流ダイナミクス—マグマ物性の影響—
※◎土屋彰登・小園誠史・奥村 聡

10:15-10:30

B3-06 桜島における様々な噴火規模の火砕流の数値シミュレーション 1 次元軸対称低濃度流と 2 次元高濃度流の二層浅水流モデル
※志水宏行

10:30-10:50 休憩

マグマの蓄積と移動 1
座長：下司信夫・三反畑修

10:50-11:05

B3-07 斜長石中の波動累帯構造に基づくマグマプロセスと時間スケールの検討：蔵王火山歴史時代噴出物の例
※◎佐藤初洋・伴 雅雄

11:05-11:20

B3-08 屈斜路 KP1 の噴火開始プロセス
※宮城磯治・宝田晋治・隅田まり・斉藤元治

11:20-11:35

B3-09 始良・鬼界カルデラの形成噴火におけるマグマ溜まり減圧過程
※下司信夫・斎藤元治・宮城磯治・Chris Conway

11:35-11:50

B3-10 トラップドア断層破壊の観測および力学モデルに基づくカルデラ地下のマグマ過剰圧推定手法：北硫黄島カルデラへの適用
※三反畑修・齊藤竜彦

11:50-12:05

B3-11 有限要素法モデルを用いた始良カルデラ下の地盤変動圧力源形状の検討
※味喜大介・筒井智樹・井口正人

10 月 14 日 (金) 午後

A 会場

火山の地質学

座長：三浦大助・片岡香子

14:00-14:15

A3-11 火砕成溶岩の成因と分類
※高橋正樹

14:15-14:30

A3-12 トレンチ調査により解明された鳥海火山の完新世噴火活動史および噴火推移パターン
※大場 司・林信太郎・遠藤雅宏
伴 雅雄・井村 匠・南 裕介

B 会場

マグマの蓄積と移動 2

座長：浜田盛久・谷内 元

14:00-14:15

B3-12 榛名火山二ツ岳岳川噴火のマグマと噴火誘発過程
※鈴木由希・福島涼人・外西奈津美・安田 敦

14:15-14:30

B3-13 鬼界海底カルデラにおけるアカホヤ噴火以降のマグマ供給系進化

※浜田盛久・羽生 毅・Iona M. McIntosh
Maria Luisa G. Tajada・常 青・金子克哉
木村純一・清杉孝司・宮崎 隆・中岡礼奈
西村公宏・佐藤智紀・島 伸和・鈴木桂子
田中 聡・巽 好幸・上木賢太・Bogdan S. Vaglarov

14:30-14:45	14:30-14:45
A3-13 磐梯山 1888 年噴火に関わる湖底密度流堆積物： 岩屑なだれ・ラハールとの関連性 ※片岡香子・長橋良隆・ト部厚志	B3-14 ピナツボ火山 1991 年噴火におけるマグマ供給系 の新知見 ※田村智弥・中川光弘
14:45-15:00	14:45-15:00
A3-14 吾妻―浄土平火山、吾妻小富士火砕丘の層序と噴 火様式の変遷 ※◎鈴木和馬・戸丸淳晴・長谷川 健	B3-15 メルトと水流体間の微量成分元素分配 ※谷内 元・中谷貴之・鈴木敏弘・東宮昭彦 田中明子・石塚 治・川本竜彦
15:00-15:15	15:00-15:15
A3-15 火山体崩壊のマグマ供給系への影響―渡島大島火 山での検討 (予報)― ※石塚 治・片山 肇 有元 純・高下裕章・下田 玄・針金由美子 Chris Conway・三澤文慶・片岡香子 前野 深・坂本 泉・横山由香・安藤進吾 古山精史朗・小川真由・内山涼多	B3-16 プルカノ式噴火における噴火微動と火山灰放出量 の関係：霧島山新燃岳と桜島の比較 ※及川 純・井口正人・田島靖久
15:15-15:30	15:15-15:30
A3-16 巨大噴火に先行する噴火活動の地質記録―クッタ ラカルデラ火山、クッタラ早来テフラの近傍堆積 物― ※三浦大助・吉中耕太 竹内晋吾・上澤真平	B3-17 地殻変動連続記録から推定される 2018 年霧島新 燃岳噴火に伴う溶岩流出の前駆的現象 ※◎吉永光樹・松島 健・清水 洋 山下裕亮・小松信太郎・山崎健一
15:30-15:45	
A3-17 大規模噴火データベース・噴火推移データベース の構築 ※宝田晋治・池上郁彦・金田泰明・下司信夫	

ポスターセッション

フラッシュトーク：10 月 17 日 (月) 9:00-11:36 (P1-01 ～ P1-41)
10 月 18 日 (火) 9:00-11:33 (P2-01 ～ P2-40)

コアタイム：10 月 17 日 (月) 13:00-15:00 (P1-01 ～ P1-41)
10 月 18 日 (火) 13:00-15:00 (P2-01 ～ P2-40)

10 月 17 日 (月)	9:12-9:15
座長：小澤 拓・竹内晋吾	P1-05 準定常ガス拡散モデルを用いた二酸化硫黄放出率 推定 ※河波俊和・森 健彦・入山 宙
9:00-9:03 (フラッシュトーク)	9:15-9:18
P1-01 海底火山活動に伴う変色海水の組成変化に関する 実験的研究 ※野上健治	P1-06 気象予測モデルを併用した新しい二酸化硫黄放出 率推定手法の開発：その 4 ※橋本明弘・森 健彦・新堀敏基・高木朗充
9:03-9:06	9:18-9:21
P1-02 UAV 搭載近赤外マルチスペクトルビデオカメラに よる土壌水分の観測 ※小野秀史・高良洋平・貝應大介	P1-07 火山学における空隙率・浸透率測定の簡便法の普 及 ※竹内晋吾
9:06-9:09	9:21-9:24
P1-03 火山性流体気体試料の自動採取装置の開発 ※森 俊哉	P1-08 画像解析および機械学習技術を援用した露頭調査 の効率向上手法の開発 ※野口里奈・春山純一・下司信夫 庄司大悟・藤本圭一郎
9:09-9:12	
P1-04 火山性熱水におけるフッ化物イオン濃度簡易定量 法の検討 ※◎陳 怡帆・木川田喜一	

9:24-9:27

P1-09 GPU を用いた新しい降灰シミュレーションコード
TwICE の開発 ※萬年一剛

9:27-9:30

P1-10 実際のレオロジー流動則の導入に向けた日本列島
とその周辺域下の粘塑性流動計算：モデル構築と
予備的評価 ※吉田晶樹

9:30-9:33

P1-11 伊豆諸島神津島火山における斜長石斑晶中の化学
組成変化 ※◎笹井由惟・飯塚 毅

9:33-9:36

P1-12 水準測量データと GNSS 連続観測データに基づく
三宅島の地殻変動源の推定 ※川口亮平・宇平幸一

9:36-9:39

P1-13 小笠原硫黄島における 2022 年 7 月マグマ噴火後
のハザード評価 ※中田節也・長井雅史・藤田英輔

9:39-9:42

P1-14 2022 年硫黄島翁浜沖噴火活動に伴う現象の観測
※手操佳子・内田 東・吉開裕亮
高橋幸祐・古川大誠

9:42-9:45

P1-15 硫黄島の火山性断層変位の成長過程— ALOS-2 干
渉 SAR 時系列解析— ※藤原 智・三木原香乃・市村美沙
石本正芳・小林知勝

9:45-9:48

P1-16 PALSAR-2 データを用いた DSI 法による小笠原硫
黄島の地殻変動の検出 ※小澤 拓

9:48-9:51

P1-17 神鍋火山の噴火層序・年代に関する古地磁気学的
検討 ※◎一井瑛介・辻 智大・山本裕二

9:51-9:54

P1-18 神鍋火山スコリアに含まれるかんらん石斑晶中メ
ルト包有物の揮発性元素 ※◎金山壮一郎・柵山徹也
清水健二・牛久保孝行

9:54-9:57

P1-19 顕微ラマン分光法による小笠原硫黄島 2012 年 3
月噴出物と新燃岳 2017 年 10 月噴出物中の熱水変
質鉱物の分析 ※池端 慶・荒川洋二・石橋純一郎

9:57-10:30 休憩

座長：嶋野岳人・安藤 忍

10:30-10:33

P1-20 九重火山群の第四紀マグマの進化過程
※柴田知之・藤原涼太郎・折戸達紀
幣島太一・芳川雅子・柴田智郎

10:33-10:36

P1-21 九重火山における飯田噴火前後の噴火史の検討
※◎福岡仁至・太田岳洋・辻 智大

10:36-10:39

P1-22 九重火山南麓における 3 つの中規模火砕流堆積物
(宮城・下坂田・飯田) の特徴とその差異 ※◎岡田将英・辻 智大

10:39-10:42

P1-23 阿蘇山 2021 年噴火前後の熱活動推移
※成田翔平・横尾亮彦・大倉敬宏

10:42-10:45

P1-24 干渉 SAR 時系列解析を用いた阿蘇山における地
殻変動の監視 ※市村美沙・石本正芳
三木原香乃・古居晴菜・雨貝知美
佐藤雄大・小林知勝・宗包 浩

10:45-10:48

P1-25 阿蘇カルデラ北北東方向における遠方 Aso-4 火砕
流堆積物の岩石学的特徴：ボーリングコア試料を
基に ※潮田雅司・中村千怜・長田朋大
辻 智大・大西耕造・石川慶彦・西坂直樹

10:48-10:51

P1-26 島原半島南部に分布する中新世玄武岩類の地質と
岩石 ※東山陽次・長井大輔・柵山徹也・森 康

10:51-10:54

P1-27 干渉 SAR 時系列解析を用いた雲仙岳溶岩ドーム
の変形 ※安藤 忍・奥山 哲・高木朗充

10:54-10:57

P1-28 衛星 SAR による 2017 年新燃岳噴火に前駆する地
殻変動の検出 ※姫松裕志・小澤 拓

10:57-11:00

P1-29 拡張カルマンフィルタ法を利用した新燃岳におけ
る地震波速度と地震計の時刻ずれのモニタリング
※高野智也・西田 究

11:00-11:03

P1-30 機械学習による霧島火山における火山性地震活動
の推定 ※行竹洋平・金 亜伊

11:03-11:06

P1-31 稠密地震観測に基づく霧島山西部地震活動の震源
分布・発震機構の特徴 ※◎鈴木陽太・松本 聡・森 亜津紗
渡辺卓司・高山竜之介
太佐駿吾・市原美恵

11:06-11:09		9:03-9:06	
P1-32	熱水の化学分析による霧島山えびの高原（硫黄山）の火山活動モニタリング ※谷口無我・大場 武・福岡管区気象台 鹿児島地方気象台・宮崎地方気象台	P2-02	気象庁数値予報モデルを用いた光波測距の気象補正における精度検証 ※入山 宙・鬼澤真也・新堀敏基・高木朗充
11:09-11:12		9:06-9:09	
P1-33	霧島硫黄山噴火後の熱水化学組成の経時変動(III) ※石橋純一郎・森 啓悟・神田 匠 宮本知治・松島 健・益田晴恵 山中寿朗・田島靖久	P2-03	火山性地震のエンベロープ幅を用いた逆問題解析 数値実験に基づいた散乱・非弾性減衰の時間変動 推定値の評価 ※◎浜本未希・熊谷博之
11:12-11:15		9:09-9:12	
P1-34	Source Location Determination of Volcanic Earthquakes at Sakurajima Volcano using CCF based SSA Method ※◎ Novia Antika Anggraeni・Takeshi Nishimura Hisashi Nakahara	P2-04	火山観測への応用を視野に入れた火球シグナルの解析 ※黒川愛香・磯畑眞理子
11:15-11:18		9:12-9:15	
P1-35	化学組成データベース構築に基づく鬼界カルデラの火成活動の理解 ※上木賢太・原口 悟・吉田健太・桑谷 立 浜田盛久・Iona McIntosh・宮崎 隆・羽生 毅	P2-05	ACO 製新型空振計の低温環境試験および他機種との比較 ※村松 弾・市原美恵 松島 健・金尾政紀・山本真行
11:18-11:21		9:15-9:18	
P1-36	反射電子像を用いた火山灰の構成比の自動迅速導出—諏訪之瀬島 1813 年噴火での検討— ※嶋野岳人・安田 敦	P2-06	ヘリコプターに搭載した可搬型赤外カメラシステム (STIC-P) による上空からの那須岳 (茶臼岳) の輝度温度等試験観測結果 ※實測哲也
11:21-11:24		9:18-9:21	
P1-37	Stromboli の噴火空振スペクトルの解釈に関する検討 ※山河和也・市原美恵 Giorgio Lacanna・Maurizio Ripepe	P2-07	二重偏波レーダーを用いた火山噴煙の解析的研究 ※久保武史・星原一航・小枝智幸 中橋正樹・佐藤英一
11:24-11:27		9:21-9:24	
P1-38	2022 年 1 月 15 日トンガ海底火山噴火により発生した傘型噴煙のひまわり 8 号による解析 (その 2) ※新堀敏基・林 昌宏・石元裕史	P2-08	定常一次元噴煙モデルと気象データによる火山噴気高の季節変化の調査 ※西條 祥
11:27-11:30		9:24-9:27	
P1-39	三原山 1951 年溶岩流のレイノルズ数, ピンガム数, ヘドストロム数の同定及び溶岩停止厚さの推定 ※本多 力	P2-09	溶岩流ドリルマップの作成: 空間分解能依存性と火山防災への応用 ※藤田英輔・志水宏行・小園誠史・中道治久
11:30-11:33		9:27-9:30	
P1-40	山体温度によるマグマ位置探査 ※橋場 明	P2-10	火砕流の確率論的・非確率論的ハザードマップによる曝露評価とリスク評価 ※河野裕希・志水宏行・田邊章洋
11:33-11:36		9:30-9:33	
P1-41	逃れられない巨大地震・噴火 届かない防災行政 ※谷 和信	P2-11	国際データベースを利用した日本国内における火山災害による犠牲者発生要因の検討 ※石峯康浩
10 月 18 日 (火)		9:33-9:36	
座長: 石峯康浩・小園誠史		P2-12	地方自治体等による噴火時対応タイムラインの作成 ※宮城洋介
9:00-9:03 (フラッシュトーク)		9:36-9:39	
P2-01	測地学的体積変化量と噴出マグマ体積に基づくマグマ蓄積条件への制約— 2011, 2018 年霧島山新燃岳噴火への適用— ※小園誠史・小屋口剛博・上田英樹 小澤 拓・山崎 雅	P2-13	火山観測を紹介するミュージアムの取り組み ※山口珠美
		9:39-9:42	
		P2-14	御嶽山ビジターセンターを活用した火山教育と防災啓発の意義 ※金 幸隆・川上明宏 近藤裕吾・野田智彦・山岡耕春
		9:42-9:45	
		P2-15	有珠山頂火口原の長期的冷却帯磁 ※橋本武志

9:45-9:48
P2-16 有珠山におけるマグマ貫入速度による噴火事象予測の試み ※不破智志・宮村淳一
9:48-9:51
P2-17 有珠山 1663 年噴出物の地球化学的研究 ※◎高橋佳佑・栗谷 豪
松本亜希子・中川光弘
9:51-9:54
P2-18 秋田焼山火山古期～中期の感度法 K-Ar 年代測定 ※山崎誠子・南 裕介
9:54-9:57
P2-19 秋田焼山における火山ガス調査 専門家および関係機関の連携による安全確保 ※岡田 純・越谷英樹・山岸 遼

9:57-10:30 休憩

座長：大場 武・本多 亮
10:30-10:33
P2-20 蔵王火山、御釜火口形成時のテフラ層の物質科学的特徴について ※◎五十嵐健人・佐藤初洋・伴 雅雄
10:33-10:36
P2-21 福島県の自然放射能の分布と地質の影響について ※佐藤佳子・熊谷英憲
10:36-10:39
P2-22 テフラ層序に基づく那須茶臼岳火山の岩石鉱物学的検討 ※◎吉川洸希・長谷川 健
Chris Conway・谷 健一郎
10:39-10:42
P2-23 長野・新潟県境関田山地の山上湿地コアに基づく妙高火山群起源テフラの噴出年代 ※◎渡辺 樹・鈴木毅彦・石村大輔
10:42-10:45
P2-24 御嶽山地域と他の火山地域の火山防災教育に関連する活動の比較 ※堀井雅恵・山岡耕春・國友孝洋・竹脇 聡
10:45-10:48
P2-25 草津白根山における地球化学的モニタリング ※大場 武・谷口無我
10:48-10:51
P2-26 草津白根山火口湖「湯釜」の酸化還元電位 ※木川田喜一・北村 凱
10:51-10:54
P2-27 草津白根山において地磁気変化を起こす消磁源の位置の特定 ※田村俊樹・神田 径
10:54-10:57
P2-28 熱水流動シミュレーションによる草津白根火山の浅部熱水系の推定 ※◎本田明紗海・神田 径・松永康生

10:57-11:00
P2-29 比抵抗構造およびマグマの熱力学計算から推定される草津白根火山のマグマ-熱水系 ※松永康生
11:00-11:03
P2-30 浅間山 16 ka 大規模プリニー式噴火のマグマ蓄積条件と噴出過程 ※◎図子田和典・前野 深
11:03-11:06
P2-31 箱根山大涌谷周辺の極浅部で発生する微小地震の活動 ※栗原 亮・長岡 優
本多 亮・板寺一洋
11:06-11:09
P2-32 箱根火山における亀裂系構造とその成因について ※本多 亮・安部祐希・行竹洋平・酒井慎一
11:09-11:12
P2-33 深部マグマの直接噴火から推測される富士火山の深部マグマ供給系の特徴 ※安田 敦・田島靖久
11:12-11:15
P2-34 富士火山大沢降下火砕物（スコリア）分布の再検討（1） ※田島靖久・嶋野岳人・安田 敦
亀谷伸子・吉本充宏・藤井敏嗣
11:15-11:18
P2-35 伊豆弧北部、東伊豆単成火山地域に分布する岩ノ山-伊雄山火山列の珪長質および中間質岩の地球化学的研究 ※荒川洋二・金井啓道
新村太郎・池端 慶・田島義之
11:18-11:21
P2-36 伊豆東部火山群の隠れたケイ長質マグマ：斜長石斑晶からの制約 ※◎野澤僚真・石橋秀巳
外西奈津美・安田 敦
11:21-11:24
P2-37 伊豆半島東方沖 2006, 2009 年群発地震活動の震源過程の特徴と過去の地震活動域との比較 ※◎田中夕香子・山田卓司
11:24-11:27
P2-38 稠密 GNSS 観測による伊豆大島の地殻変動源の推定 ※島村哲也・川口亮平・鬼澤真也
11:27-11:30
P2-39 伊豆大島 1986 年噴火 B スコリアのマイクロライト組織 ※◎宮下明典・石橋秀巳
外西奈津美・安田 敦
11:30-11:33
P2-40 斑レイ岩捕獲岩から探る伊豆大島 1986 年 B 噴火のマグマ溜まり ※◎吉田那緒・石橋秀巳・千葉達朗
外西奈津美・安田 敦・針金由美子

